

巻頭言：図書館にあって思うこと	1
特 集：加盟館の紹介	
寒川総合図書館、大和市立図書館	2
明治大学生田図書館、川崎市立看護大学図書館	3
連 載：わたしのイチオシ 平塚市中央図書館「東海大学との連携」	4

図書館にあって思うこと

神奈川県図書館協会長（神奈川県立図書館 館長）

村上 剛史

私の自宅は県立図書館から歩いて 10 分とかからないところにあります。本館の新築の際は、コロナ禍で徒歩通勤をしていたので、毎日のように前を通り工事の進捗を見ていました。出来上がった時には、県の施設にしてはハイカラなデザインだな、と感じたことを覚えています。

元々本は好きで、学生の頃は読み漁っており、人格形成に少なからず影響があったと考えていますが、社会に出てからは必要に迫られて読む程度になっていき、インターネットやスマホの利用に合わせて更に遠のいていました。そのため、本館オープン後も訪れることはありませんでした。

ほどなく妻が利用し、「中もおしゃれだよ」と教えてくれました。また、「近くて、異動先にいいじゃない」とも言われ、「まさかそんな都合のよい話はあるえない」と笑っていました。しかし、この会話をきっかけに、「徒歩圏に図書館があるなんて幸せなこと。知り合いもないし、仕事を卒業したら入り浸ってやるか」と密かに考えるようになりました。

ところが、その「まさか」があり、図書館勤務となりました。そして、初めて本館に入り、背の高い書架の間に立った時、えも言われぬ興奮に襲われました。「これは凄い『財産』だ、もっと利用してもらわないと」そんな思いでした。同時に、面が割れ、老後の計画が一つ潰えた、という落胆の気持ちも襲ってきましたが。

県立図書館は、本館の新築、収蔵館の改修を終え、現在、前川國男館の改修に着手しています。再整備は、「現代社会は、インターネットや他のコンテンツとの競合で、読書に時間を割きにくく、本を手にとらなくなっているため、図書館がその役割を果たすには、多くの人が訪れやすく、『読む』ことに集中できる環境をつくる必要がある」との有識者からの指摘をベースに進めてきました。

しかし、来館者を見ると、「おしゃれな空間」は利用しているものの、「財産」を利用している人は少ないと感じています。本との出会いを作るため、ギャラリーの展示や窓面の書架を活用した「企画棚」のほか、書架の随所に「司書箱」という箱を設け、当館司書が考えたテーマに沿った蔵書を選び、箱内に展示するという取組を行っています。館内を回っていて、司書箱の本が借りられていると、とても嬉しい気持ちになります。

再整備は通過点でしかありません。この「財産」をより多くの方に利用いただくための知恵を時代に合わせて職員全員が出し続けていくこと（「ゆでガエル」ではいけません）、また、神図協の皆様は県立図書館を上手く活用いただくこと、その先に図書館の成長があるのでは、と考えるこの頃です。

特集： 加盟館紹介（公共図書館）

神奈川県図書館協会には、78 館の公共図書館が加盟しています。今回は、開館から節目の年を迎える「寒川総合図書館」と「大和市立図書館」を紹介します。

寒川総合図書館

寒川総合図書館は、2026 年 11 月に開館 20 周年を迎えます。現在、20 周年を盛り上げるべく1年を通して多くの利用者に来館していただけるように様々なイベントを実施しています。月ごとに絵柄の違う「月替わりしおり」のプレゼントや、月に一度貸出をした本の分類に合わせたオリジナルトレーディングカードがもらえる「十進王国ライブラリー」など、継続して行っているイベントに加え、利用者から「20 周年おめでとうメッセージ」やお勧めの「押し本」を募集、展示し開館記念の企画展示を行う予定です。

開館日に当たる 11 月3日は館内全体で一日を通して様々なイベントを行う「ビバ！20 周年☆図書館まつり 2026」を開催します。ワークショップや地元販売店からのキッチンカー、ボランティアグループのワークショップや、ミニゲーム、ビンゴ大会、スタンプラリー 20 周年にあわせた館内装飾などを実施し、普段は静かな図書館が大変にぎやかになります。

今年の目玉はプロのウクレレプレーヤーを招き開催する図書館コンサートです。図書館1階児童フロアで開催し、多くの方に聴いていただけるように申込不要のイベントとなります。そのほか、おまつり当日に貸出をした方には図書館特製トートバックをプレゼントします。

今後も「人にやさしく、あたたかい図書館」を目指し、開館 20 周年を彩る企画で多くの利用者に楽しんでいただけるよう考えていきます。



（寒川総合図書館 館長 川村 佳子）

大和市立図書館

大和市文化創造拠点シリウスが誕生してから、おかげさまで 10 年という節目を迎えます。

開館以来、当館が何よりも大切にしてきたのは、単に本を貸し出す場所にとどまらない、市民の皆様の「心地よい居場所」となることです。

それを象徴するのが、「ルールよりマナー」という考え方です。当時の図書館では、「おしゃべり禁止」や「飲食禁止」などのルールを掲示し、利用者の行動を制限することが一般的でした。一方シリウスでは、細かなルールで縛るのではなく、利用者同士が互いに思いやりながら、それぞれの過ごし方を認め合う運営を目指しました。

もう一つの特徴的だったのが、毎日のようにイベントを開催し、「行けば何かやっている」状態をつくったことです。目的のある人だけが訪れるのではなく、「今日は何かあるかもしれない」と足を運び、そこで偶然、本や人、活動に出会う。その出会いが次の行動につながっていく。そうした日常的なきっかけが、利用促進だけでなく、温かい居場所づくりにもつながってきました。

シリウスが示したのは、本を核に人が滞在し、人や文化と出会い、次の行動が生まれる場所として捉え直す新たな可能性です。「全館図書館」というコンセプトのもと、図書館、芸術文化ホール、生涯学習センター、屋内こども広場を一体化し、施設全体が一つの「市民の居場所」となることを目指しました。豊富な座席を備え、本を借りる人だけでなく、勉強する人、子どもと過ごす人、特に目的を持たずに立ち寄る人まで、あらゆる人を幅広く受け入れる環境がここにはあります。

この 10 年間、シリウスは多くの笑顔と、人と人との温かい交流に満ちた場所へと成長いたしました。これからの未来も、社会の変化や多様化するニーズに柔軟に対応しながら、市民の知的好奇心を満たし、その日常に寄り添う「心地よい居場所」であり続けるために、私たちはこれからも立ち止まることなく、市民の皆様と共に新たな歩みを進めてまいります。

（大和市立図書館 館長 山口 友理子）

特集： 加盟館紹介（大学図書館）

神奈川県図書館協会には、45 館の大学図書館が加盟しています。今回は、川崎市内にある「明治大学生田図書館」と「川崎市立看護大学図書館」を紹介します。

明治大学生田図書館

明治大学生田図書館は、緑豊かな多摩丘陵高台にある生田キャンパスの東側中央に位置する新校舎、センターフォレスト内にあります。センターフォレストは「図書館・ラーニングコモンズ・教室」の3つの用途で構成されており、1階から3階に図書館、4階から6階に教室、建物全体にラーニングコモンズを配置し、この3用途の相乗効果を期待して、2025 年4月にオープンしました。生田図書館としては、隣接する旧図書館の書庫への改修工事を経て、2026 年4月にグランドオープンを迎えました（面積約 6,740 m²）。

センターフォレストは、ヒマラヤ杉の樹木林を伐採・整地して建設されました。そのため、設計にあたり生田図書館としては「森の中の図書館」をコンセプトに、壁面、カーペット、書架等に森をイメージするデザインが施され、また備品の一部には伐採したヒマラヤ杉を再利用したものもあります。閲覧席は、898 席で、多種多様な種類のものを用意しています。蔵書は、自然科学・理工学・農学を中心としています。これ以外にも文庫、新書及び一般文芸書を多数揃えており、蔵書数は約 55 万冊です。この他に明治大学4図書館の共通書庫である生田保存書庫には約 41.7 万冊を擁しています。

生田キャンパスでは、理工学部・農学部及び大学院理工学研究科・農学研究科の学生・大学院生が約 8,200 名学んでおり、授業・実験等の関係で長時間キャンパスに滞在していることから、生田図書館は、その教育・研究支援及び終日滞在型キャンパスライフスタイルの快適性・利便性支援の一翼を担っています。現在の生田図書館の入館者数は、旧図書館の時と較べて約 1.5 倍となっています。

また、神奈川県川崎市との協定に基づき、川崎市立図書館の利用証を取得している川崎市在住・在勤の方は、所定の手続き（別途利用料が必要です）をすれば、生田図書館を利用することができます。



（明治大学生田図書館）

川崎市立看護大学図書館

川崎市立看護大学は、鶴見川沿いの川崎市幸区小倉に位置しており、2022 年4月に開学した単科大学です。本学は、1995 年に開学した前身の川崎市立看護短期大学の教育理念と実績を継承しながら、地域包括ケアシステムを支える看護職の育成と看護学研究の発展を目指しています。



図書館では、短期大学時代から蓄積された蔵書やサービスを基盤に、新たな大学図書館として教育・研究活動を支える役割を担っており、看護学の資料を中心として、学生が講義や実習で必要となる基本文献から、卒業研究や教員の研究活動に活用される専門書・学術雑誌、電子ジャーナルや電子ブックなどのデジタルコンテンツなど多種多様な情報を提供しています。また、2025 年4月に開設した川崎市立看護大学大学院の看護学研究科の教育・研究活動を支える情報拠点として、専門資料や電子資料の充実に努めています。

看護教育においては、主体的な学びや課題解決能力の育成が重要視されており、図書館は学生が知識を深め、情報を活用するための「学びの拠点」として日々利用されており、館内には閲覧席や学習スペースを配置し、個人学習だけでなくグループワークにも対応しています。また、文献検索や資料利用の支援を通じて、情報リテラシーの向上にも取り組んでいます。



（川崎市立看護大学図書館）

連載 わたしのイチオシ

平塚市中央図書館「東海大学との交流事業」

平塚市は、市内に湘南キャンパスがある東海大学と、昭和61年(1986年)4月から交流事業をスタートしました。市民の各種文化活動の高揚、大学が持つ専門技術や知識、研究活動を通じた交流など、大学との交流による街づくりと良好な学園環境づくり、そして、地域と大学とが相互に発展することを目的に、さまざまな交流事業を展開しています。平塚市中央図書館も、東海大学付属図書館と資料の相互貸借や市民や学生の相互利用をはじめ、司書課程履修学生の実習受け入れ等により連携し、定期的に交流会議を開催し職員同士の情報交換を行ってきました。今回は、近年の主な交流事業について紹介します。

「TOKAIグローバルフェスタ」は、東海大学が開催する、近隣地域のすべての世代の方々との交流を目的に、平塚市・秦野市・伊勢原市・中井町・根室市と連携した、東海大学を地域住民に開放するイベントです。中央図書館は、東海大学司書課程学生や教員の皆様と連携し、令和4年度(2022年度)から毎年参加しています。令和7年度(2025年度)は、おはなし会、平塚市図書館のキャラクター「ぶくまる」のぬり絵等の配布、しおり作り、POPを添えたおすすめ本の展示、リサイクル本の無料配布、移動図書館あおぞら号の展示と資料の貸出などを実施しました。家族連れを中心に多くの方にご来場いただき、本や図書館に親しんでいただけました。毎回司書課程の学生さんたちの熱心な読み聞かせや手遊びに、日ごろから読み聞かせに携わっている職員も思わず引き込まれることもありました。また、学生さんには実際の読み聞かせや利用者の反応を体験いただく貴重な機会にもなっていると感じます。



1日ミニ図書館 with 平塚市中央図書館

令和7年度は、平塚市と東海大学が交流提携を始めてから40周年の節目の年であることから、さまざまな記念事業が実施されましたが、中央図書館で実施した2つの事業を紹介します。

○ 東海大生によるひらつかデジタルアーカイブ活用案の展示

平塚市図書館職員が司書課程履修学生に平塚市図書館のデジタルアーカイブについて説明し、学生にその活用方法を研究いただきました。その成果を、中央図書館で展示しました。

○ 東海大生によるおすすめ本の紹介POP展示

学生たちが平塚市図書館の中から紹介する資料を選んで作成したPOPと資料を並べて展示しました。



東海大学生のおすすめ本

図書館利用者には、通常の職員が作成した展示とは雰囲気の違い、学生ならではの選書やPOPを目にすることで、新たな本との出会いを提供し、同時に本を通じた学生と市民の交流の場ともなっていると感じられました。また学生にとっても、本人や友人が作成した展示を見ることで、普段利用する機会の少ない地域の図書館へ足を運ぶきっかけになったのではないかと思います。

これからも様々な形で連携することで、地域にお住まいの方と学生がゆるやかにつながるような図書館づくりにつなげていきたいと思っています。

(平塚市中央図書館 西海 豊)